

ひばりが丘高校うどん部について

1. うどん部の活動紹介

H22年から市民に愛される「吉田のうどん」の情報を全国に発信し、「讃岐うどんを越える」くらい有名にしようと、日々活動している。(活動当初は情報経理科の課題研究という授業で実施。H25年に物づくり部となり、H27年に正式にうどん部として登録された。)その活動が評価され、H27年に市長から「吉田のうどん観光大使」に任命された。ホームページ製作、イベント出店、商品開発、うどん打ち講習会、そして、フリーペーパー製作など活動内容は多岐にわたる。市内に約50軒あるうどん店の情報を発信するため、年1回発行しているフリーペーパーの製作は今年で10年目を迎えた。年々、支援して下さる団体も増え、うどんナビvol.10の発行部数は7万部となっている(フリーペーパー累計発行部数は約38万部。1年目2,400部、2年目7,000部、3年目34,000部、4年目28,500部、5年目58,500部、6年目65,000部、7年目75,000部、8年目20,000部、9年目20,000部、10年目70,000部、11年目80,000部、1年休載をして、13年目、20,000部)。県内外より取り寄せの問い合わせが絶えず、在庫はいつも品薄となっている。フリーペーパーを製作するためには、うどん店1軒1軒に何度も足を運んで取材し、商品撮影を行うだけでなく、店主と対話を重ねることが重要だ。そのため、私たちがうどん店を取材した回数は延べ300回を越え、食べたうどんは1,000食を軽く上回った。これまで、取材を通して店の人とのコミュニケーションを密にし、店側のニーズに合った支援を模索してきた。新メニューの提案、のぼり旗の製作などはその一例だ。また、年間10回以上のイベントへの出店も部の活動として定着し、自分たちで麺を打つ機会も増えた。その経験を通して、各店舗での仕込みの大変さを実感することができた。さらに、身につけた技術を活かして各地でうどん打ち講習会を開催し、地域の子供達に伝統食文化を受け継いでもらうための努力も続けている。そして、後継者不足によるうどん店の減少問題を解決しようと、自らうどん店を開業することにした。現在、セルバ本店(スーパーマーケットのフードコート)にて毎週日曜日限定でうどん店を営業している。なお、開業した平成30年の総売上金額は118万円、令和元年度は150万円、令和2年度はコロナ渦の中、170万円を突破した。

また、これまでのうどん部の活動をまとめたものを毎年商業科で実施している生徒商業研究発表大会にて発表しているが、県内では6年連続優勝しており、平成30年と令和3年に全国大会に出場しており、令和3年度においては、全国5位に入賞した。



※うどん店の仕入費用はすべてセルバが負担する代わりに、売上金額はすべてセルバに渡している。

2. これまでの活動履歴

(H22年)
・情報経理科の課題研究にてホームページ「うどんなび」を開設
(H23年)
・情報経理科の課題研究にてフリーペーパーうどんなびvol.1を発売（以降毎年1回発行） ・丸新製麺と「顎砕きMAX」を開発・販売。・天下GO!麺「吉田のうどんコロッケ」を開発・販売
(H24年)
・佐藤製麺と「竹炭黒麺」を開発・販売 ・黒麺をベースに5店で創作料理を作成してスタンプラリーを実施 (天下GO!麺、ふじや、えきまえ、おお野、赤坂うどん) ・ふじやと連携してトマトうどん、抹茶うどん等を開発・販売 ・商工会議所青年部と連携開始（地域のイベントに出店するようになる。その際、屋号として「うどん部」という名称を用いるようになった。）
(H25年)
・授業の一環であった吉田のうどんの活動を部活へ移行する。 (その当時実質休部になっていた物づくり部を活用する。対外的にはうどん部としていた。)
(H26年)
●めざせ勝手に観光大使！ 「吉田のうどん」の情報を発信し、全国的に有名にするため始動した。うどん店のHP製作、フリーペーパー製作、県内のイベント出店などを中心に活動した。 ・橙東と共同で「すりだね」を開発・販売
(H27年)
●めざせ独立採算！そして地域に還元 フリーペーパーの発行部数を大幅に増やすための資金調達に挑戦した。数々のイベントに出店し利益をあげた。地域貢献が評価され、市より「吉田のうどん」観光大使に任命される。 ・日刊スポーツとの連携開始（でんぱ組.incとうどん作りをする） ・物づくり部からうどん部に名称変更
(H28年)
●新フリーペーパー活用術 ～目指せ県民ALL観光大使～ フリーペーパーを最大限に活用してもらうため案内所を開設した。さらに次世代に文化継承することを目的にうどん打ち講習会を開き、プチ観光大使の輪を広げる活動を展開した。 ・ももいろクローバーZの桃神祭に初出店（日産スタジアム） ・日刊スポーツ主宰の富士五湖マラソンに参加（でんぱ組.incとうどん作りをする）
(H29年)
●吉田のうどんCRISIS 救うのは俺たちだ！！ 後継者不足によるうどん店減少を食い止めるため、「鉄ん家」「忒星軒」という2店のうどん店支援を行った。また、誰もが簡単に起業できるように吉田のうどんのつゆの商品開発をした。 ・伊藤忠・テンヨ・セルバ・うどん部共同で「吉田のうどんだしMAX」を開発・販売 ・ヴァンフォーレ甲府主宰の試合に初出店

(H30年)

●「吉田のうどん」の後継者に俺たちがなる!!!

後継者不足によるうどん店減少を打破するために、自らがうどん店を開業する。文化を継承する礎になることを目指すとともに、実践的な商業活動に挑戦する。

- ・京香堂と共同で「すりだね」を開発中
- ・伊藤忠・セルバ・うどん部共同で「ふるさと納税品」を共同開発
- ・「ハラル吉田のうどん」を開発
- ・日本食糧新聞にて本校開発商品の「吉田のうどんだしMAX」について1面で取り上げられる
- ・教材「ニュービジョン現社」で取り上げられる

(R01年)

●食文化継承をビジネスチャンスに変えろ!!

後継者育成のきっかけ作りとして子ども店長制度を実施(就業体験)した。さらに、うどん店開業者の支援をするためのうどん道場制度をスタートした。

- ・ヒルナンデス!に取り上げられる
- ・教材「ニュービジョン現社」「Watching Joyful」「Watching Light」で取り上げられる
- ・東京中日スポーツに掲載
- ・セルバ、関東フード(日本ハム)と共同で「すりだね」を活用した惣菜を開発
- ・アド街ック天国で取り上げられる
- ・秋田県で実施されたうどんエキスポに高校生団体として初出店
- ・めざましテレビで取り上げられる
- ・子ども食堂開店を目指し準備中

(R02年)

●コロナに負けない店づくり開発!!

新型コロナウイルスの影響で、うどん店の営業活動が大幅に制限されるなか、過去最高の売上高を目指してセルバのうどん店を大幅に改革した。

- ①サブスクリプション(月額固定定額利用制度)を導入
- ②お持ち帰りメニューの開発とモバイルオーダープログラムを開発導入
- ③スタンプカード、回数券制度を導入
- ④セルバで営業するうどん店が閉業しても、うどん部の吉田のうどんが食べられるように、三ツ星カンパニーと共同し、メニューを開発販売した
- ⑤子ども食堂スタート(セルバで営業するうどん店にて、幼児用のうどんを無料で配付)

- ・教材「ニュービジョン現社」「Watching Joyful」「Watching Light」で取り上げられる
- ・セルバ、株式会社日本アクセス(伊藤忠子会社)と商品開発を開始
- ・セルバ専売用の「吉田のうどん麺」開発
- ・フリーペーパーvol.10発刊(70,000部)

(R03年)

●プログラミング思考で、新型コロナ禍をチャンスに変える!!

昨年度の活動をまとめ、生徒商業研究発表大会に参加。県大会は最優秀賞、関東大会は優秀賞で全国大会に進出した。全国大会では、優良賞を受賞し全国5位になった。

- ・セブンイレブンと共同で商品開発をすすめ「MAGMA」を令和3年7月28日に発売。当初1か月で中止する予定だったが、反響が多かったので、急遽販売が延長され、2か月間で5万個販売することに成功した。

- ・セブンイレブンとの共同開発商品の第2弾「吉田のうどん辛口きんぴら×すりだね」が令和4年2月15日から発売
- ・閉業した「開花うどん」の味を引き継ぎ、セルバで営業するうどん店において新たなメニューとして販売することになった。
- ・フリーペーパーvol.11を発売予定（85,000部）

（R04年）

- 本年度は部顧問の入れ替わりにより、生徒商業研究発表大会及びフリーペーパーの発行は見送り（次年度の再開を予定している）
- ・セブンイレブンとの共同開発商品「すりだね山椒MAX吉田の辛肉まぜうどん」を販売（2022年8月2日～）
- ・子ども食堂の開始（9月23日初回、今年度3回実施）
- ・山梨放送自社制作ドラマ「メンドウな人々（仮題）」のモデルとして選出

（R05年）

- 地域交流で吉田のうどんを広める！！
県内での吉田のうどんの知名度を基に、全国により知名度を広めるための活動について調査研究を実践。山梨県生徒商業研究発表大会では、県内5位という成績であった。
- ・セブンイレブンより「吉田の辛肉まぜうどん すりだねガラムMAX」を販売（2023年7月19日～）
- ・子ども食堂の実施（9月3日初回、今年度5回実施）
- ・各種イベントへの参加（全国ウエイクボード選手権、県民の日記念式典、VF甲府サンクスデー参加）
- ・吉田小学校総合的探究の時間でうどん打ち講師として、小学生へ実演指導を実施

3. 受賞歴等

■平成23年

第10回 高校生ホームページコンテスト グランプリ

■平成24年

第11回 高校生ホームページコンテスト 前橋市長賞

17回ホームページコンテスト 経済産業省 関東経済産業局長賞
サンケイリビング新聞社賞
高校・大学・専門の部 最優秀賞

■平成25年

第12回 高校生ホームページコンテスト グランプリ

■平成26年

第13回 高校生ホームページコンテスト 前橋市長賞

10回 生徒商業研究発表大会山梨県大会 優良賞

■平成27年

第14回 高校生ホームページコンテスト グランプリ

11回 生徒商業研究発表大会山梨県大会 最優秀賞

9回 生徒商業研究発表大会関東大会 優良賞

富士吉田市うどん観光大使任命

■平成28年

- 第15回 高校生ホームページコンテスト 前橋商工会議所会長賞
- 12回 生徒商業研究発表大会山梨県大会 最優秀賞
- 10回 生徒商業研究発表大会関東大会 優良賞
- 共同通信主催地域再生大賞関東甲信越ブロック賞
- ボランティアスピリットアワード関東甲信越ブロック賞

■平成29年

- 第13回 生徒商業研究発表大会山梨県大会 最優秀賞
- 11回 生徒商業研究発表大会関東大会 優良賞
- 商業高校フードグランプリ2017関東甲信越ブロック代表 審査員特別賞
- ソロプチミスト ボランティア賞

■平成30年

- 第14回 生徒商業研究発表大会山梨県大会 最優秀賞
- 12回 関東ブロック高等学校生徒商業研究発表大会 優秀賞
- 26回 全国高等学校生徒商業研究発表大会 優良賞
- 商業高校フードグランプリ2017関東甲信越ブロック代表 全国審査員特別賞受賞

■令和01年

- 第15回 生徒商業研究発表大会山梨県大会 最優秀賞
- 13回 関東ブロック高等学校生徒商業研究発表大会 優良賞
- 第14回 食育推進全国大会 農林水産大臣賞
- 全国まるごとうどんエキスポ2019 in 秋田・湯沢 実行委員長特別賞
- マイプロジェクトアワード2019 関東 summit 出場
- フジノミライ 市長賞

■令和02年

うどん部の活動が食育白書に掲載される

■令和03年

- 第17回 生徒商業研究発表大会山梨県大会 最優秀賞
- 15回 関東ブロック高等学校生徒商業研究発表大会 優秀賞
- 29回 全国高等学校生徒商業研究発表大会 優良賞 (全国5位)

4. 最近のメディア取材

■新聞

- ・山梨日日新聞
- ・朝日新聞 (秋田県版・山梨県版)
- ・毎日小学生新聞
- ・読売中高生新聞

・東京中日スポーツ ・読売新聞 ・日本食糧新聞

■テレビ

・ヒルナンデス！ ・めざましテレビ ・沼にはまってきいてみた ・アド街ック天国 ・てててTV
・所さんのお届けモノです！ ・月曜から夜更かし ・富士五湖CATV（うどん作り） ・あさいち
・未来の主演 ・山梨いまじん ・ひるまえほっと ・ニッポンわが町うどんMAP ・ジューダイ
・秘湯ハンター ・Rの法則 ・ニュースの星 ・ハルさんの休日 ・WBS ・14歳からのスタートアップ
・激ウマ西遊記 ・Newsかいドキ ・ミャンマーテレビ+静岡朝日テレビ（番組名不明）
・THE TIME ・キングオブスクール やすとも・友近のキメツケ！※あくまで個人の感想です
・news Evrery ・所さんの学校では教えてくれないそこんトコロ！

■ラジオ

・FM富士 ・YBSラジオ

■WEB関連

・未知の細道 ・ニュースサイトしらべえ ・大塚食品MATCH 部活紹介

■小説

・ポプラ社「部活感動ストーリー」 近江屋一朗

■副教材

・ニュービジョン現社 ・Watching Joyful ・Watching Light

■食育白書

・農林水産省